

夢風便り

ゆめかぜだより

Volume 6



特集

女子サッカー王国 浜松磐田への道

遠州偉人列伝

夫婦で目指した「世界」への道

三浦 環／三浦政太郎 [前編]

ザ・サステイナブル・フューチャー

ヤマハが変える遠隔コミュニケーション



令和3年12月発行(年2回発行)
発行 浜松いわた信用金庫
浜松市中区元城町114-8
053-401-1812
<https://hamamatsu-iwata.jp/>
編集・制作 株式会社メディアトーク

ゆめかぜだより

3 特集

女子サッカー王国 浜松磐田への道

10 遠州偉人列伝

夫婦で目指した「世界」への道

三浦 環／三浦政太郎 [前編]

14 ザ・サスティナブル・フューチャー

ヤマハが変える遠隔コミュニケーション

18 輝く未来人

磐田市 密岡奏央くん

20 われら夢風カンパニー

File : 11 株式会社静岡県セイブ自動車学校

File : 12 ウエル恵明会株式会社

24 ゆめかぜ探偵団

スイーツバンクのリアルな「非日常」

27 I Love Iwata! 磐田大好き!

知念ヨシオさん／知念力ヨコさん

28 まちの映えスポット

築120年の古民家キッチン

30 ぶらり黒猫の街さんぽ

遠州横須賀編

32 未来に残したい遠州遺産

澤野医院記念館

女子サッカー王国 浜松磐田への道

特集



2021年9月、日本初の女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」が開幕しました。これを機に、女子サッカーの新たな盛り上がりが期待される中で、わが浜松・磐田地域でも若い女子選手たちがもっと上のレベルを目指して躍動しています。今回はその中から、代表的な3チームの奮闘ぶりをご紹介しましょう。



静岡SSUアスレジーナ
SHIZUOKA

トップリーグへの飽くなき挑戦

「私たちの目標は、2024年に国内トップのWEリーグに加盟すること。そのためのステップとして、今季のなでしこリーグ2部で2位以内に入り、来季の1部昇格を果たす予定でした*。しかし、残念ながら結果は3位。今は気持ちを切り替え、来季こそ1部リーグ行きの切符をつかんで、WEリーグ参戦への道を拓きたいと思っています。磐田市に本拠を置く静岡SSUの監督で、日本女子サッカー界のレジェンドの一人である本田美登里さんは、このように意気込みを語ります。

静岡SSUの母体は、静岡産業大学磐田ボニータ。ボニータは2010年、日

本女子サッカーリーグに加入し、2018年からなでしこリーグ2部に参戦しました。しかし、翌2019年にはリーグ最下位に沈み、下部のチャレンジリーグに降格。弱体化したチームを抜本的に改革するため、同年末に本田さんを監督に招聘し、2020年1月にはチーム名を現在のものに変更しています。この「本田効果」は絶大で、2021年には1年振りに2部返り咲きを果たしました。

「その勢いに乗って2021年は開幕ダッシュを図り、優勝で一気に1部昇格を決めたかったのですが…。開幕戦でまさかの大敗を喫し、その後も波に

乗りきれないままシーズンを終えてしました。やはり、選手たちのサッカーに取り組む姿勢にまだまだ甘さがあり、これを克服しない限り、WEリーグ参戦は夢のまた夢です」

そう語る本田さんは、清水市(現在の静岡市清水区)出身。小学校3年生からサッカーを始め、清水市立商業高校(現在の静岡市立清水桜が丘高校)サッカー部でプレイしました。清水サッカー部といえば、風間八宏、藤田俊哉、名波浩、川口能活、小野伸二ら、日本代表選手をキラ星のごとく生んだ名門中の名門です。本田さん自身も、清

士館大学、読売サッカークラブ女子ベレーザでも活躍。ベレーザ時代、日本女子サッカーリーグで第2回(1990年)~第4回(1992年)の三連覇、全日本女子サッカー選手権大会(皇后杯)では第9回(1988年)~第10回(1989年)連覇に貢献しています。

1991~1993年にはベレーザのブレイングコーチを務め、後に2011FIFA女子ワールドカップでチームを優勝に導く澤穂希(当時ベレーザ)らを指導しました。2001年、岡山湯郷Belle監督に就任し、宮間あや、福元美穂らの有力選手を育成。2005年にはユニバーシアード世界大会で女子サッカーレディース監督を務め、岩清水梓、川澄奈穂美らを擁して銅メダルを獲得しています。

2007年、女性指導者として初めて日本サッカー協会S級コーチの資格を取得。2013年、チャレンジリーグのAC長野パルセイロ・レディース監督に就任し、3年で同チームをリーグ優



練習の際でも、ゴール前の競り合いは真剣そのもの

勝、1部昇格に導きました。まさに、日本女子サッカー界の名伯樂です。「次

のなでしこジャパン監督を本田さん

に」という声がかかっても、決して不思議ではありません。

「清商を卒業してから、ずっと静岡県外で活動していた私ですが、一昨年、静岡SSUの監督として數

十人ぶりに戻ってきました。やはり、ふるさとに恩返ししたいという気持ちが強かったです。ただ、磐田はスポーツのまち

というイメージはあっても、サッカーのまちかというと、意外とそうでもないなと(笑)。とくに女子サッカーへの関心はあまり高くないですね。だからこそ、来年はチームをしっかり1部に上げ、2024年のWEリーグ入りを実現したいと思っています」



今後のチーム運営について語り合う三浦CEO(右)と本田監督

とが何より大切。そこで最大のキーマンとなるのは、静岡SSU代表理事CEOの三浦哲治さんです。

「私たちが志向するのは、インテリジェンスとイマジネーションにあふれるアグレッシブなサッカー。それによって、観客を驚かすようなスペクタクルな試合を展開したいと思っています。これを実現するため、まず本田監督を招聘。またテクニカルコーチとして、J1の川崎フロンターレや名古屋グランパスの監督を務めた風間八宏氏を招き、現場を強化しました。今後はしっかりした財源を確保し、プロとして戦うための戦力補強、チームの安定的運営を進めたいと考えています」

三浦さんは静岡市で生まれ、静岡学園高校時代に全国高校サッカー選手権大会準優勝、青森国体で優勝しました。また東京農業大学に進学し、関東大学リーグ・大学選手権で準優勝。1994年に静岡産業大学サッカー部の初代監督、2008年にはボニータ初代監督に就任しました。2018年からは静岡産



全体練習の前に、黙々と自主練に励む三好茜さん

の価値が高まり、ひいては地域全体の活性化、地域創生につながるはずです。ただ、私はプロ化がすべてだとは思っていません。プロになりましたというだけで、事業として成り立たなければ、チームの存続すら危うくなります。今後は、できるだけ多くの地域企業の皆さんとの賛同を得て、安定した収益基盤を築きながら、プロらしいスペクタクルなサッカーを展開していくべきと考えています」

また、プロを目指す上でもう一つ欠かせないのは選手たちの「意識改革」。漫然とプレイするのではなく、自分なりのしっかりした目標を持ち、それに向かってプランニングするという自立した精神が必要です。これについて本田監督は次のように述べます。

「今の選手たちには、W杯優勝メンバーの世代のように、練習をやめろと言ってもやめない、怪我をしても休まないといった“昭和の根性論”は通じません。やはり、プロになるために何が必要かを自分たちで気付けるよう、わ



限られた練習時間の中で、選手たちは懸命にボールを追いかけています

れわれ指導陣がヒントを与え、気付きを待つことが大切だと思います」

さてここからは、静岡SSUに所属する33人の選手の中から、代表して4人の選手に登場してもらいましょう。まずはキャプテンの藤原加奈さん。今号表紙で、華麗なコーナーキックを披露してくれた選手です。藤原さんは東京都青梅市の出身。6年前、当時のボニータに加入するため、たった一人で磐田にやってきました。

「ポジションは攻撃的MFで、3-4-3システムの最前列左側に入っています。試合の中では『止める、蹴る』の基本技術を常に意識しながら、攻撃と守備の両面でゲームコントロールすることを心がけています」。藤原さんは現在、杏林堂薬局に勤務。平日は午後4時半から6時半まで練習に取り組んでいます。会社勤務で社会人としての良識を養いつつ、試合では気迫のプレーでチーム全員を引っ張っていくのが藤原さんの持ち味なのです。

続いて、4ページの写真で躍動的なボレーを決めるのは、FWの藤田桃加さん。浜松市出身の藤田さんは、中学

カーともいえるでしょう。

3人目は、県内高校女子サッカーワールドの絶対王者、藤枝順心高校サッカーワーク出身のFW・土屋佑津季さん。掛川市生まれの土屋さんは、2021年、なでしこ1部のオルカ鴨川FCから静岡SSUに移籍しました。「1部から2部への移籍ですが、自分はとにかく試合に出たい、そしてふるさとで活躍したいという思いで、ここへきました。持ち味のスピードを活かし、チームの1部昇格に貢献したいと思っています」。

そしてもう一人、この先が楽しみな異色のタレントがいます。FWの三好茜さん、17歳です。伊東市出身の三好さんは、中学生の時からアメリカハサッカー留学していましたが、コロナ禍で帰国。2021年、静岡SSU入りしました。「ここでしっかり技術を磨き、将来はなでしこジャパン、英プレミアリーグで活躍するのが目標です」。そんなダイヤの原石も仲間に加えながら、静岡SSUの頂点への挑戦はさらに続きます。



PK練習でボールにくらいくGK高橋美春さん

行政、企業一体でスポーツ文化を育成へ

今年10月7日、地域のスポーツ文化を発信するため、磐田グランドホテルに豪華メンバーが集結しました。今年4月、市長に初当選した草地博昭さん、日本代表として活躍した元ジュビロ磐田の藤田俊哉さん、静岡SSUの本田美登里監督と高木昭三会長(浜松いわた信用金庫顧問)の4人です。これらの方々は、フリーランサーの細田阿也さんの司会でパネルディスカッションを行いました。

この中で草地市長は「スポーツを通して、地域に笑顔を広げるトップランナーとして、静岡SSUに期待します」と表明。これに対し本田監督は「皆さんに応援してもらえるよう、強いチームを目指します」と応えました。また藤田さんは「海外のサッカーファンは地元のチームを本当に愛しています。その中から世界的



右から高木昭三会長、本田美登里監督、藤田俊哉氏、草地博昭磐田市長、細田阿也アナ

なプレイヤーも生まれるわけで、まさに『環境が人を育てる』といえます。地域の皆さんも、ぜひ地元のチームを応援してほしいですね」と述べました。さらに高木会長は「行政、企業が一体となり、スポーツ文化を育成することが大切」と強調しました。

当日の模様は、静岡SSUのクラブ公式YouTubeで配信中です。



特別対談
2021#1

※特別対談の動画は4本構成になっています



日指せ! ジャイアントキリング 磐田東高校女子サッカー部

特集

広いピッチ上を駆け回り、激しくボールを奪い合う選手たち。磐田東高校サッカー部の部員同士による練習試合の光景です。ただ、よく見ると一方は男子チーム、もう一方は女子チームで、男子が女子を圧倒するゲーム展開が続いている。体格で劣る女子選手たちは常にボールを支配され、自陣に押し込まれる苦しい戦いぶり。見ていて気の毒になるほどですが、これについて「全国レベルの強豪校と互角の勝負をするため、あえて男子と戦わせていました」と語るのは、同校女子サッカー部監督の北野宗克さんです。「当然、女子は男子のパワーとスピードに圧倒されますが、それを真正面から受け止めることが何よりの練習になるんです」。

ここで再びグラウンドに目を転じると、依然として女子が劣勢を強いられ



約30年間、チームを率いてきた北野宗克監督



女子同士の練習でも、激しい攻防が続きます

頭一つ背の高い男子選手に囲まれながら、懸命にボールをキープします

って行きました。

現在、県内の高校女子サッカーワー界では、藤枝順心高校(藤枝市)がトップに君臨。このほか、常葉大学附属橘高校(静岡市)や東海大学附属静岡翔洋高校(同)などが強豪校として知られています。これに対し、磐田東高校も県内で5本の指に入る実力校と評価されていますが、トップを目指すにはまだ課題

があるようです。

「今年の新人戦の準決勝で藤枝順心と当たり、後半残り5分まで1-0で勝っていたんですが、その後、2点取られて逆転負けしました。また4月の静岡県インターハイでも、予選では0-0の引き分けだったのに、決勝では0-5の大敗。最後は地力の差が出ましたね。確かに、技術、スピード、体力で藤枝順心さんには敵いません。しかし、気持ちの強さではウチのチームは負けていませんので、そのところは評価してやりたいと思っています」

磐田東高校女子サッカー部のチーム理念は「走り負けない、当たり負けない、気持ちで負けない」。そしてチームの目標は、全日本高校女子サッカー選手権でベスト8に入ることです。そのためには、目の前に立ちはだかる“巨人”を倒さなければなりません。

「わがチームの強みは、指導者、スタッフ、選手たちの心が一つになること。一人ひとりの力は小さくとも、みんなで力を合わせれば、いつか必ず道は拓けます」。小が大を打ち負かす「ジャイアントキリング」の瞬間が、今から待ち遠しいといえそうです。

小さなまちクラブが描く大きな夢 浜松泉FC女子部

浜松泉FC女子部

ロゴ

特集

浜松市で唯一の女子サッカークラブである浜松泉FC。中学生を主体にチームを構成し、U-15女子サッカーリーグ東海などに参戦しています。2021年の全日本U-15女子サッカーワー選手権大会東海大会では、準々決勝まで進出しました。「準々決勝の相手は、同じ東海リーグのNGU名古屋。超格上の強豪です。勝てば全国大会出場という大事な試合でしたが、結果は0-4の完敗。それでも、『ボールを止め、運ぶ、蹴る、そして走る』という当たり前のことを当たり前にできる相手チームとの戦いは、子どもたちにとって貴重な経験になったと思います」。クラブの峰山直久監督は、選手たちの練習風景に目をやりながら、こう語ります。

現在、クラブの所属選手は43人。そのうち16人が東海リーグに参加し、そのほか県リーグ、県西部リーグに参加するメンバーもいます。それぞれのメンバーは時に入れ替えを行い、互いの競争心を刺激することもあるといいます。そんな選手たちの練習で、最初に行なうのはテニスボールを使ったリフティング。あえて小さいボールを蹴る

フォワードとディフェンスによる1対1のせめぎ合いが双方の能力を高めます



ことにより、ボールの芯をしっかりと捉える感覚を身に付けます。続いて、1対1でボールを奪い合う練習が始まりました。「これは一見、フォワードの練習のように見えますが、実はディフェンスを一生懸命やるための手段でもあるんです」と峰山監督は強調します。

「ディフェンスが手を抜くと、フォワードは絶対うまくなりません。逆にディフェンスが一生懸命やれば、フォワードもやらざるを得なくなって、自然に能力が向上するんです。こうしたトレーニングの本質を理解すれば、選手は勝手にうまくなります。後はいつ休憩しようが水を飲もうが、自由にすればいいんですよ(笑)」

勝つための基本的な訓練を丹念に繰り返しつつ、選手たちの自主性を重んじる浜松泉FCのチームカラー。それは、名門、エリートと呼ばれるビッグクラブとは対照的な「まちクラブ」そのものの自由さといえるでしょう。「小さなまちクラブが全国の大舞台に出て、強豪をばたばたとなぎ倒す。これは痛快ですよ。当クラブにはまだ全国大会の経験はありませんが、いつか選手たちにそこからの景色を見せて

やりたいですね。そのために必要なのは、攻撃的かつ自由な発想でサッカーを楽しむこと。その方が見ている人も楽しいじゃないですか。3点取られても4点、5点取り返すという攻めの姿勢で、勝利をつかみ取りたいと思っています」。

静岡SSUを頂点に、高校、地域クラブや小中学校で構成される浜松磐田地域の女子サッカーワー界。各チームの高い実力と、情熱的なサッカーライフに定評はありますが、まだまだ全国トップレベルには及ぼません。しかし、選手たちのひたむきな努力、そして地域の手厚いサポートがあれば、「女子サッカーワー王国・浜松磐田」への道は必ず拓けることでしょう。



テニスボールを使ったリフティングの練習



選手たちに指示を飛ばす峰山直久監督